## 令和4年予備試験 民法

## ▋問題文

- 1 次の文章を読んで、後記の〔設問1〕及び〔設問2〕に答え
- 2 なさい。
- 3 解答に当たっては、文中において特定されている日時にかか
- 4 わらず、試験時に施行されている法令に基づいて答えなさい。
- 5 なお、民法以外の法令の適用について検討する必要はない。

6

## 7 【事実】

- 8 1. Aは、建築設計工事等を業とする株式会社である。Bは、
- 9 複合商業施設の経営等を業とする株式会社である。Bは、A
- 10 との間で、令和4年4月1日、Bの所有する土地上にAが鉄
- 11 筋コンクリート造の5階建て店舗用建物(以下「甲建物」と
- 12 いう。)を報酬2億円で新築することを内容とする建築請負
- 13 契約(以下「本件請負契約」という。)を締結した。
- 14 2. 本件請負契約の締結に当たって、Bは、Aに対して、「外
- 15 壁の塗装には塗料 α を使用してほしい。」と申し入れ、Aは
- 16 これを了承した。塗料αは、極めて鮮やかなピンク色の外壁
- 17 用塗料である。
- 18 3. Aの担当者が近隣住民に建築計画の概要を説明した際に、
- 19 地域の美観を損ねるとして多数の住民から反発を受けたた
- 20 め、Aは、周辺の景観に合致する、より明度の低い同系色の
- 21 外壁用塗料である塗料βで甲建物の外壁を塗装することとし
- 22 た。
- 23 4. 令和7年10月25日、塗料βによる外壁塗装を含む甲建
- 24 物の工事が完了した。同月30日、Aは、Bに対して、甲建
- 25 物を引き渡した。
- 26 5. 令和7年10月31日、Bは、Aに対して、「塗料αは、
- 27 Bの運営する他の店舗でも共通して用いられており、Bのコ
- 28 ーポレートカラーとして特に採用したものである。外壁塗装
- 29 に塗料βを使用したことは重大な契約違反である。この件の
- 30 対処については、社内で検討の上、改めて協議させてもら
- 31 う。」と申し入れた。

●全体確認:設問2つ、適用法令、設問独立 まず設問1 (、2) へ

●予想、特に要件を念頭に事実確認

l

本件請負契約の内容

62 [本] の事実

ļ

Ţ

•

予想:「品質」「に関して契約の内容」(5

1

Ţ

予想:「適合しない」の事実

Ţ

Ţ

ţ

ļ

予想:仕事完成の事実

予想:「引き渡された」(562 [本)の事

美

予想:「品質」「に関して契約の内容」、「適合しない」の事実、Bの主張

1

1

ļ

ţ

- 32 6. 塗料  $\beta$  は、塗料  $\alpha$  よりも耐久性が高く、防汚防水性能にも
- 33 優れており、高価である。そのため、外壁塗装を塗料 α で行
- 34 った場合の甲建物の客観的価値よりも、外壁塗装を塗料βで
- 35 行った場合の甲建物の客観的価値の方が高い。

36 37 **〔設問1〕** 

- 38 【事実】1から6までを前提として、次の問いに答えなさ
- 39 V
- 40 (1) Bが塗料 α による再塗装を求めたが、 A がこれを拒絶した
- 41 場合において、Bは、Aに対して、本件請負契約に基づく報
- 42 酬の減額を請求している。Bの請求が認められるか、【事
- 43 実】6に留意しつつ論じなさい。
- 44 (2) Aが塗料  $\alpha$  による再塗装を行う旨の申入れを行ったが、B
- 45 がこれを拒絶した場合において、Bは、Aに対して、再塗装
- 46 に要する費用を損害としてその賠償を請求している。Bの請
- 47 求が認められるか論じなさい。

48

49 【事実】

- 50 7. Cは、個人でラーメン店を経営し、全国に多数の店舗を有
- 51 する。Dは、創業当時からCの従業員として重要な貢献をし
- 52 てきたが、独立して自分のラーメン店を持ちたいと思うよう
- 53 になり、その旨を C に伝えた。
- 54 8. Cは、Dの長年の功労に報いたいと考え、Cの所有する土
- 55 地及びその上の店舗用建物(以下併せて「乙不動産」とい
- 56 う。)を無償でDに貸すが、固定資産税はDに負担してほし
- 57 いと申し出た。 Dは、この申出を受け、令和2年1月10
- 58 日、C との間で、上記の内容を記した覚書(以下「本件覚
- 59 書」という。)を取り交わして使用貸借契約を締結し、これ
- 60 に基づいて乙不動産の引渡しを受けた。
- 61 同年3月1日、Dは、乙不動産においてラーメン店(以下
- 62 「本件ラーメン店」という。)を開業し、乙不動産の固定資
- 63 産税を同年分から C に代わり毎年支払った。
- 64 9. 令和8年1月、Cは死亡し、子EがCを単独相続したが、
- 65 Eは、詳しい事情を知らないまま、乙不動産の固定資産税を
- 66 Dに支払ってもらっていた。なお、乙不動産の登記名義人

予想: 「品質」「に関して契約の内容」、「適合しない」の事実、Aが再塗装を拒絶した理由、当該要件の検討が得点源

●答案の書き方+得点源を手厚く

●設問確認:問い2つ、独立

\*

検討対象予想:減額請求の根拠・要件(基 礎知識)、Aが再塗装を拒絶した理由

ţ

検討対象予想:損害賠償請求の根拠・要件 (基礎知識)、再塗装申入れ

●予想、特に要件を念頭に事実確認へ

●予想、特に要件を念頭に事実確認、日付注

.

\*

1

1

予想: R 2.1.1 0 C D間使用貸借、「所有の意思」(162I)の事実

ţ

1

R 2.3.1 D開業

.

予想: R 8.1 C死亡、E相続、185 の解釈、同解釈を念頭に事実確認

¥